

日本の国土は、その位置、地形、地質などから、地震、風水害などの自然災害が発生しやすく、平成23年3月11日には東日本大震災という想定をはるかに超える災害を経験しましたが、その後も平成28年熊本地震、平成30年7月豪雨及び令和2年7月豪雨など甚大な被害をもたらした災害が相次いで発生しており、更なる防災・減災の取り組みが求められています。

本市におきましては、今後30年以内に70～80%という高い確率で発生が予想される南海トラフを震源とした巨大地震と、これに伴う津波による被害が懸念されるとともに、大分川・大野川という一級河川を有していることから、近年頻発・激甚化している風水害による被害も懸念されます。

こうしたいつどこで発生するかわからない災害に備え、本市では「安全・安心を身近に実感できるまちづくり」を基本的な政策として掲げ、さまざまな防災・減災の対策を推進しています。いざという時に自らを、そして家族を守るためには、何よりも市民の皆様一人ひとりが正しく災害について知り、事前に備えていただくことが重要です。

この「わが家の防災マニュアル」は本市域内で発生が予想されるさまざまな自然災害などから身を守るための行動と備えについてわかりやすくまとめていますので、ご家族で災害対策について話し合っていた際に活用いただくとともに、地域で防災訓練などを行う場合にぜひご活用ください。

もくじ

自然災害に備える

激甚化する自然災害に備えて 1

地震・津波

地震を知りましょう 3
 地震発生！そのときあなたは？ 4
 わが家を安全な場所にしましょう 8
 津波の危険から身を守りましょう 10

風水害・土砂災害

風水害から身を守りましょう 12
 土砂災害から身を守りましょう 16

避難情報・避難場所

避難情報を正しく理解しましょう 18
 非常持出品と備蓄品をそろえましょう 20
 「指定緊急避難場所」と「指定避難所」の違いを知っておきましょう 21
 大分市指定緊急避難場所兼指定避難所一覧 22
 避難所での生活を考えましょう 24

火災

火災による被害をなくすために 26

弾道ミサイル・放射線災害

弾道ミサイル落下時の行動について 28
 放射線災害が起きたら 28
 大分市で考えられる原子力災害とは 29

日ごろからの備え

覚えておきたい応急手当 30
 地域ぐるみで支え合いましょう 32
 生活再建をすすめましょう 34
 防災情報の入手方法を知りましょう 36
 災害の前に備えられること 39
 「おおいマイ・タイムライン」活用方法 88
 おおいマイ・タイムライン～
 わが家の避難計画 裏表紙

ハザードマップ

<p>■洪水ハザードマップ</p> <p>洪水ハザードマップ全体図…40 ハザードマップを見る…41 洪水ハザードマップ①…42 洪水ハザードマップ②…44 洪水ハザードマップ③…46 洪水ハザードマップ④…48 洪水ハザードマップ⑤…50 洪水ハザードマップ⑥…52 洪水ハザードマップ⑦…54 洪水ハザードマップ⑧…56 洪水ハザードマップ⑨…58 洪水ハザードマップ⑩…60</p>	<p>■津波・地震ハザードマップ</p> <p>津波・地震ハザードマップ全体図…64 津波・地震ハザードマップ①…66 津波・地震ハザードマップ②…68 津波・地震ハザードマップ③…70 津波・地震ハザードマップ④…72 津波・地震ハザードマップ⑤…74 津波・地震ハザードマップ⑥…76 津波・地震ハザードマップ⑦…78 津波・地震ハザードマップ⑧…80 津波・地震ハザードマップ⑨…82 津波・地震ハザードマップ⑩…84</p>
<p>■浸水継続時間マップ…62</p>	<p>■高潮ハザードマップ…86</p>

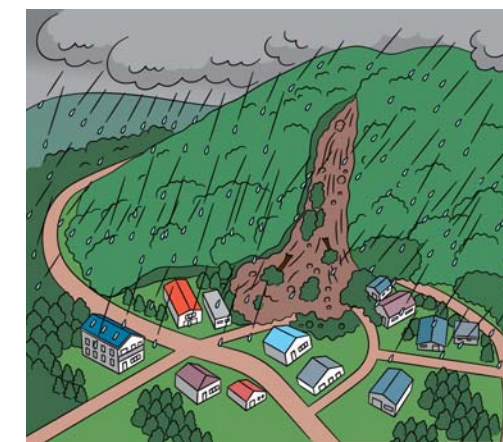
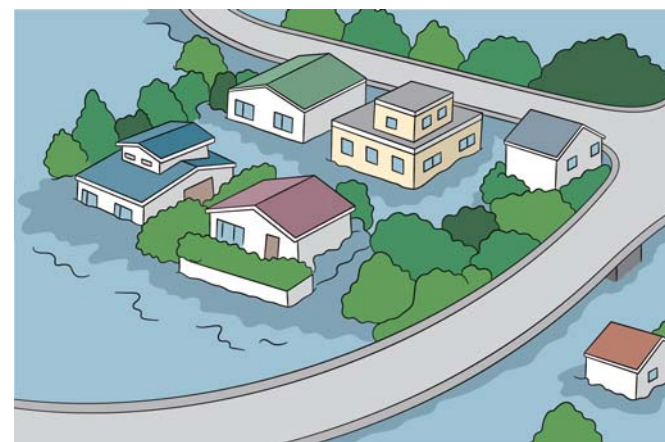
激甚化する自然災害に備えて

世界でも有数の地震国とされる日本は、いつ、どこで大規模な地震が起きてもおかしくありません。また、集中豪雨や台風などによる風水害は、地球環境の変化の影響などもあって毎年のように大きな被害をもたらしています。

激甚化、頻発化する風水害

日本の河川は川の長さが短く急こう配なため、降った雨が山から海へと比較的短い時間で流れます。このため梅雨や台風などで大雨が降ると、地形的に洪水や土砂災害が起きやすいといわれています。

さらに近年は気候変動の影響などから、毎年のように日本各地で観測記録を更新するような豪雨や暴風が発生しています。



近年の主な風水害

令和3年7月1日から3日の東海地方・関東地方南部を中心とした大雨	令和3年7月1日～7月3日。6月末から梅雨前線が北上し、西日本から東日本に停滞。数日間にわたって断続的に雨が降り続き、東海地方から関東地方南部を中心に記録的な大雨となった。
令和2年7月豪雨	「熊本豪雨」。令和2年7月3日～31日。西日本から東日本の広範囲にわたる長期間の大雨。球磨川などの河川氾濫や土砂災害が発生。
令和元年東日本台風	令和元年10月（台風第19号）。東日本の広い範囲における記録的な大雨により大河川を含む多数の河川氾濫などが発生。
令和元年房総半島台風	令和元年9月（台風第15号）。房総半島を中心とした各地で暴風などが発生。
平成30年7月豪雨	「西日本豪雨」。平成30年6月28日～7月8日。広島県・愛媛県で土砂災害、倉敷市真備町で洪水害などが広域的に発生。
平成29年7月九州北部豪雨	平成29年7月5日～6日。朝倉市・東峰村・日田市で洪水害・土砂災害などが発生。

地球温暖化の影響が考えられます

近年の風水害の激甚化や頻発化の背景として、地球温暖化の影響が考えられます。気象庁の調査によると、1日の降水量が200ミリ以上になる大雨の日や、1時間当たり50ミリ以上の「滝のように降る」短期間強雨の回数が長期的に増加傾向にあります。地球温暖化の影響が指摘されているこうした雨の降り方の変化に応じて、土砂災害の発生回数も増加傾向にあります。地球規模の環境の変化を考慮したこれまで以上の防災・減災の取り組みが必要です。

